

本邦のインドメタシンとインドメタシンプロドラッグ

	分子量	100mg中の インドメタシン	経口吸収率	標準投与量での インドメタシン換算
インテバンSP®	357.79	100mg	100%	75mg
インフリー®	562.15	63.6mg	20%	51mg (200mg × 2)
ランツジール®	415.82	86.0mg	ほぼ100%※	77.4mg (30mg × 3) 154.8mg (60mg × 3)
ミリダシン®	1076.58	33.2mg		(90mg × 3)

※アセメタシン(ランツジール®)は消化管からほぼ完全に吸収され、かつ速やかにインドメタシンに変換される。

(伊藤昭文ら. Acemetacin (K-708) の体内動態—イヌおよびサルにおける吸収, 排泄および代謝—. 薬理と治療 1981; 9: 147-160.)

頭痛診療におけるインドメタシン製剤の課題

	最大投与量 (mg/日)	インドメタシン換算 (mg/日)	保険 適応	主な適応外使用疾患
インテバンSP®	75	75	・解熱 ・消炎 ・鎮痛	・片頭痛 ・筋収縮性頭痛 ・好酸球性膿疱性毛囊炎
インフリー®	400	51		・片頭痛 ・筋収縮性頭痛
ランツジール®	180	154.8		なし

E. 治療量(※)のインドメタシン

発作性片側頭痛においては経口インドメタシンは最低用量
150mg/日を初期投与として使用し、必要があれば225mg/日
を上限に増量する。(ICHD-3)

ランツジール®の最大投与量で、ICHD-3の目標量の
インドメタシン150mgを達成できる。